

松嶋夜話 卷之下 16

〔原文〕

〔訓読〕

※陽徳院〔現在地名〕松島町松島 町内：瑞巖寺の北隣にある。臨済宗妙心寺派、本尊釈迦如来。伊達政宗の正室愛姫の菩提寺。

〔原文〕其月臘朔念經諷誦之間八人災起方丈不可救

〔訓読〕其の月の臘朔、念經諷誦の間、八人の災い方丈に起きて救うべからず

〔原文〕伽藍半時爲有烏

〔訓読〕伽藍、半時、有烏と爲る

〔原文〕吁徑山兩尼中峯一灰笑隱三火所不脱乎

〔訓読〕吁、徑山の兩尼、中峯の一灰、笑隱の三火、脱（の）がれざる所か

※尼…厄？

※笑隱…人名？

〔原文〕然顧我之一身衣盂悉殘矣

〔訓読〕然れども我の一身を顧みるに、衣盂悉く殘（つき）たり

〔原文〕如睡醒之

〔訓読〕睡醒めたるが如し

※之…これ、よくわかりません

〔原文〕偶有口占之偈

〔訓読〕偶たま口占の偈有り

〔原文〕示志曰

〔訓読〕志を示して曰く

〔原文〕今朝破曉燒袈裟脱體現成玉有華

〔訓読〕今朝破曉、袈裟を燒き、脱體に現成する玉に華有り

※脱體現成…「脱体に現成す」とよむ。全体がまるごとありのままに現前すること。ありのままな（脱体）一切のすがたが、そのままで仏になりきって（現成）いるということ。

〔原文〕劫火洞然毫末盡

〔訓読〕劫火洞然として、毫末盡く

〔原文〕平生受用只梅花

〔訓読〕平生の受用、只梅花